

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。(今月号からグループライフのコーナーが新しくなりました)

Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

【今月のアーティスト】 末永恵理(すえなが えり)さん 画家・富士見町在住

末永恵理さんは東京都の出身で、1996年に東京芸術大学大学院壁画科を修了。その後、1999年の夏、ここ富士見町に移住しました。以後、精力的に作品を制作しながら、長野や山梨のギャラリーで毎年個展を開いています。また、これまで数回にわたり、公立美術館での個展、グループ展も開催されました。

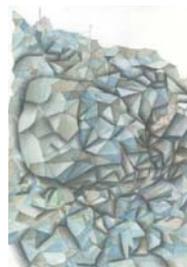
末永さんの絵画のテーマは、木や森、山、キジン(木や森の神、魂)。力強さと優しさが同居する木々の絵、繰り返される線と面で構成された緻密でダイナミックな絵が特徴です。そうした作品には、自然や神性、人知を超えたものへの畏敬を覚えると同時に、作者自身による、内面への一途な探求心を感じます。

そんな末永さんが語る富士見町の良さは、山や森が近く、空気が澄んでいること。休日には愛車を駆って、アウトドアライフを楽しむことも多いとか。この自然豊かな高原で、末永さんは今日もキャンバスに向かっていていることでしょう。

【Information】今年6月に、山梨県北杜市小淵沢町のギャラリーアマノで個展を開催予定。詳しくは末永さんのfacebookページ(<https://www.facebook.com/eri.suenaga.71>)でチェック!



【雲海】
2006年 182cm×273cm
板に油彩



【蓼科山】
2012年 18cm×25.5cm
透明水彩、鉛筆、
チャコールペンシル

文：前島孝一(小海町高原美術館館長・清里フォトアートミュージアム職員) 富士見町富士見在住
facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>

Stay Smile 「県制覇」を目指して!チームの絆を夏に発揮!

富士見中学校

富士見中学校野球部は、2年生9名、3年生6名の計15名で活動しています。先輩・後輩の関係を超えて、お互いに助け合い、声を掛け合いながら、熱い気持ちをもって、日々の練習に励んでいます。

野球部では、礼儀を大切にしています。中でも、特に意識していることは学校生活です。当たり前のことを当たり前に行えることを心掛けています。

そんな富士見中学校野球部の目標は「県制覇」です。そのために、冬の練習では、毎日のように走りまわりました。そして、常に自分の限界に挑んできました。時には、心が折れそうになった時もありました。しかし、仲間同士、声を掛け合って励まし合いながら、乗り越えてきました。

そこで得た仲間との“絆”を夏の大会で発揮します。

また、技術面では、仲間同士で切磋琢磨し合って向上してきています。まずは、基礎・基本を体に身につけ、応用していくことが、一番大切なことだと思っています。そして、常に上を目指して今の自分に満足せずに、練習に取り組んでいます。分からないことがあれば、仲間やコーチ、監督に相談して自分に磨きをかけています。これからは、だんだんと試合も増えていきます。今までの経験を活かし、自分たちを信じて、感謝の気持ちをもって、中学生らしいはつらつとしたプレーで、勝利を目指していきます。応援、よろしくお願いします。



▲新人戦諏訪地区大会優勝 笑顔あふれる富士見中ナイン

Stay Smile 万が一の災害等に備えて、私たちが今できること

日本赤十字社富士見町分区

赤十字奉仕団では災害時の対応について、講習会・研修会をとおして技術向上に努めるとともに、炊き出しや応急手当の講習普及など、ボランティア活動を行っています。

それぞれの地域の中で、どうやってお互いが支えあっていくのか、私たちはそれぞれの小さな知恵を集め、自助・共助の役割を持ちながら地域に根ざした活動を進めていきたいと考えています。

【こんな活動を行っています】



▲町防災訓練での炊出し



▲救急法講習会でAED



▲防災講演会で「自助・共助」避難所運営について学びました

★活動いただける赤十字奉仕団員を募集しています★

健康で意欲のある方ならどなたでも応募できます。性別・年齢は問いません。

関心のある方はぜひ、ご連絡ください！

《お問い合わせ・申し込み先》

日本赤十字社富士見町分区 富士見町赤十字奉仕団事務局
(住民福祉課社会福祉係内) ☎62-9144



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの領分を守るために~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「歩く」ということ

「歩く」ことへの関心の高さは、ウォーキング実践人口の多さや地域でのウォーキング講座開催の多さを見てもよくわかります。実際に日頃の運動不足解消のために、軽いウォーキングをしてみると体も調子よくなり、気分も爽快になりますから、大人の私たちは「歩く」ことの楽しさや大切さは十分に理解していると言えるでしょう。

では、子どもにとって「歩く」ことはどんな意味があるのでしょうか？

大人同様、「体づくり」という側面もありますが、「自分の足で歩く」ことは子どもの心の成長にとっても大変意味のあることです。自分の足で歩くということは、自分で目的を決められる、自分の世界を自分の力で獲得できる、自分の意志通りに動ける、体験できる、ということです。このことは、「積極的になる」「能動的になる」ことにつながり、前向きな気持ちと体の成長が一致します。

「子育てひろばAiAi」の「おさんぽ隊」では、よちよちの幼児がお母さんに見守られながらキャンプ場の整備されていない地面をよたつきながら歩きます。「野外保育森のいえ“ぽっち”」では、ぬかるんだ道、つるつるの氷の上、くさっぱら、小川の濡れた石やふわふわの雪の上、坂道、砂利道、どんな道も楽しいこと発見をしながら歩きます。「小学校放課後のあそびば」では、子どもたちが知らず知らずのうちに歩くことになるような地形を選んで開設しています。

卒園卒業、入園入学の季節。「自分の道を歩いていってください」と大人は子どもたちへ、はなむけの言葉を贈ります。子どもたちが自分で決めた道を、自分で歩いていけるような力を育てることを大人が考えなければ、言葉は中身のないものになってしまいます。私たち大人は、「歩く」機会を子どもたちに、たくさん用意したいですね。

